



令和7年11月18日(火)
第15号



飯塚市立小中一貫校飯塚鎮西校
中学部・校長 秦 俊 明

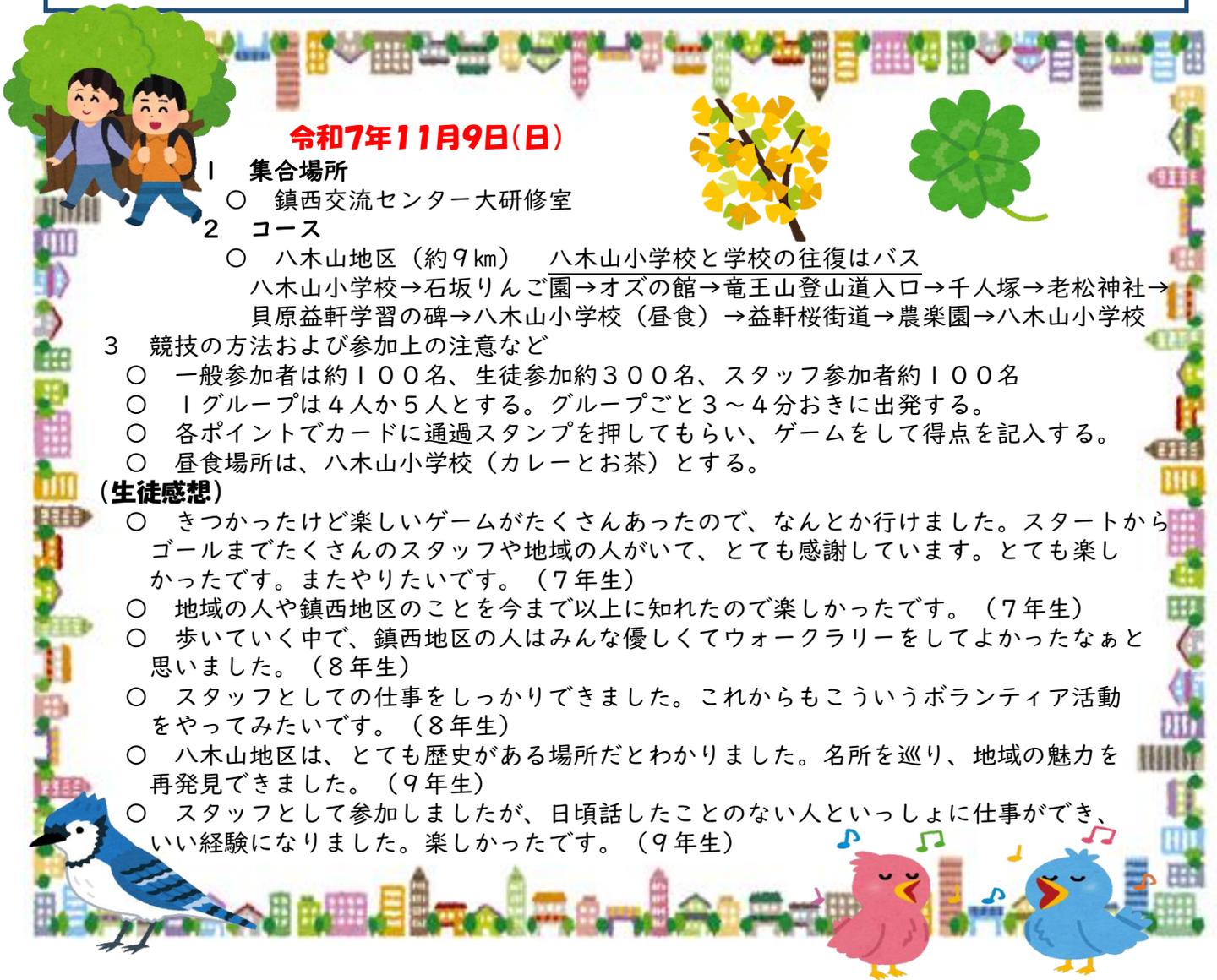


「校区ウォークラリー」

今から24年前に「総合的な学習の時間」がはじまりました。鎮西中学校は、第1学年においては、「大発見!八木山の宝」と題し、生徒に、「ひと(家族、地域の人、高齢者、専門家など)」、「もの(山、川など自然環境、建造物、特産品など)」、「こと(風俗習慣、伝統行事、地域・家庭行事など)」にかかわらせました。また、数年後、生徒会を中心に3年生全員を「校区ウォークラリー」に参加させました。鎮西中学校では、他に職場体験、福祉体験なども行っていた時期もありました。職員の異動、コロナ禍などもあり、活動はなくなっていきましたが、今回、十数年ぶりに、まちづくり協議会、体育振興会、交流センターなどの協力で、再び、しかも、3年生(9年生)だけでなく全校生徒が「校区ウォークラリー」に参画することができました。

自分達の暮らす地域に愛着を感じ、誇りをもてるということはすばらしいことです。地域への愛着は、地域を理解することから始まると考えます。「校区ウォークラリー」を通して、古い歴史をもつ鎮西地区の史跡・文化財を知り、よさを生徒自身に感じてほしいです。そして、そこで発見した感動を大切に、地域の一員としての自覚を高め、地域を発展・貢献させようとする生徒に育ててほしいと願います。

学校と地域が連絡を取り合い、目標を共有して、子どもへ声をかけ、学校を超えた様々な活動や取組が大切だと考えます。地域の人から「よさ」を認めてもらい、学校ではみせない子どもの「よさ」を知ること、学校でさらにほめ、認めることができます。しかし、他者との関係性、状況や条件が変われば、ほめられない時もあります。だから、大人は、子どもの「よさ」を認めつつ、よいところ、そうでないところを超えて、子どもへのかかわりを積み重ねていくことが大切だと考えます。



令和7年11月9日(日)

1 集合場所

- 鎮西交流センター大研修室

2 コース

- 八木山地区(約9km) 八木山小学校と学校の往復はバス
八木山小学校→石坂りんご園→オズの館→竜王山登山道入口→千人塚→老松神社→
貝原益軒学習の碑→八木山小学校(昼食)→益軒桜街道→農楽園→八木山小学校

3 競技の方法および参加上の注意など

- 一般参加者は約100名、生徒参加約300名、スタッフ参加者約100名
- 1グループは4人か5人とする。グループごと3~4分おきに出発する。
- 各ポイントでカードに通過スタンプを押してもらい、ゲームをして得点を記入する。
- 昼食場所は、八木山小学校(カレーとお茶)とする。

(生徒感想)

- きつかったけど楽しいゲームがたくさんあったので、なんとか行けました。スタートからゴールまでたくさんのスタッフや地域の人が出て、とても感謝しています。とても楽しかったです。またやりたいです。(7年生)
- 地域の人や鎮西地区のことを今まで以上に知れたので楽しかったです。(7年生)
- 歩いていく中で、鎮西地区の人はみんな優しくウォークラリーをしてよかったなあと思いました。(8年生)
- スタッフとしての仕事をしっかりできました。これからもこういうボランティア活動をやってみたいです。(8年生)
- 八木山地区は、とても歴史がある場所だとわかりました。名所を巡り、地域の魅力を再発見できました。(9年生)
- スタッフとして参加しましたが、日頃話したことのない人といっしょに仕事ができ、いい経験になりました。楽しかったです。(9年生)

ウォークラリーで地域交流

飯塚鎮西中生 スタッフ側でも参加



山道を元気よく歩く飯塚鎮西中の生徒

飯塚市の鎮西地区の自然や史跡を巡る「ウォークラリー」が9日、開かれた。19回目の今回は、地元住民ら100人のほか、地区内の飯塚鎮西中の全校生徒約300人が実際に歩くグループとスタッフに分かれて

参加し、それぞれ郷土愛を深めた。

コースは八木山小を発着点とした約9km。生徒は複数人のグループを組み、リッポン園や神社、江戸時代の儒学者ゆかりの碑など計10カ所のチェックポイントを



回り、生徒が考えた八木山にちなんだクイズや、紙飛行機を飛ばして距離を競うゲームをして楽しんだ。鎮西地区まちづくり協議会主催。

スタッフ側として臨んだ



(中山雄介)

上村花乃さん(14)「同中2年IIは「コロナ禍ではできなかった地域のひととの交流ができた」。グループで歩いた松川愛瑠沙さん(13)「同1年IIは「初めての道もあり、知らないことがた

く

